

①教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること。

1. 大学としての教員養成に対する理念及び認定課程設置の趣旨等

川村学園は、大正13年川村文子によって、“人づくり”の根幹は母親教育であり、女子教育の振興こそ、国家民族の発展の礎であるとの確固たる信念の具現を目的に「川村女学院」として創設された。

爾来、「感謝の心」を基盤とした「自覚ある女性」の育成による「社会への奉仕」を教育理念として、一貫教育のもとに知育・徳育・体育の調和ある教育を施し、豊かな国際的感性と高い人間性を備えた社会の各分野で活躍する卒業生を世に送り出してきた。

本学園は、上記の理念の下に、「高度な学識と広い視野をもった」心身ともに健康な女性を育成することにより、時代の要請に応えるため、昭和63年大学を開設した。

大学の設置理念は、大学学則において、「教育基本法、学校教育法及び川村学園創立の精神に則り、深く専門の学術を研究し、知的、道徳的応用能力を展開させ、もって文化国家の発展と福祉に貢献する女性を養成することを目的とする」と述べている。前半部は、「感謝の心」と「自覚ある女性」を拡充して、知的能力の向上を前提として学生個々人の人間性の調和のある発達を、大学が理念としていることを示している。後半部は「自覚ある女性」と「社会への奉仕」を拡充して、自らの社会的使命を自覚し社会の有用な一員になり得る人材の養成を、理念としていることを示している。つまり時代の要請に見合った知識と能力（種々の技能を含む）をもって「社会に貢献し得る女性の養成」を行うことが大学の教育理念である。

本学は、この教育理念の下に、徳育・知育・体育の調和のとれた教育を施し、教養・人間性・品性を備えた卒業生を世に送り、社会の要請に応えるとともに建学の精神の顕現に邁進している。また、本学は、教育の担い手である幼稚園教諭・保育士から小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、栄養教諭を育成し、司書、学芸員等の社会教育の実践者の養成とも併せて、人の生涯にわたる教育・実践者を世の中に送り出したいという考えを持つものである。

近年、社会の大きな変動に伴い、国民や保護者の間には、学校に対して、必要な学力や体力、道徳性等を確実に育成する良質な教育を求める声が高まっている。これからの学校には、高い資質・能力を備えた教員が、子どもたちの知・徳・体にわたるバランスの取れた成長を目指して指導に当たること、保護者や地域住民との適切な役割分担と相互協力を図りながら、活気ある教育活動を展開することが求められる。

このような視点から、本学では、教員としての基礎・基本となる教育能力を確実に身につけた優れた教員を養成し、世の中に送り出したいと考えている。より具体的に言えば、①教師の仕事に対する使命感や誇り、園児・児童・生徒に対する愛情や責任感などの「教職に対する強い情熱」、②子ども理解力、学級づくりの力、学習指導・授業づくりの力等々「教育の専門家としての確かな力量」、③豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法などの対人関係能力、コミュニケーション能力などの人格的資質、教職員全体と同僚として協力していく資質等々の「総合的な人間力」を備えた、つまり高度の専門性を備えた実践的指導力のある教員の養成を目指すものである。本学が地元の我孫子市教育委員会と学校ボランティア協定を結び、市内の小学校・中学校において、教科学習支援や課外活動支援を体験する機会を設けているのも、上述した本学教員養成の理念を具現化する取り組みである。また近年は千葉県教育委員会が実施する教員養成事業「ちば！教職たまごプロジェクト」への参加を推奨し、多くの学生がこの事業に参加している。児童教育学科では、平成27年度入学者から正式科目に位置づけ単位化している。平成29年度の法改正の趣旨である、教員養成時における資質向上や地域との連携に、対応する試みである。平成29年度からは教職センターを設置し、「教育の専門家としての確かな力量」の習得の指導を強化している。

加えて、本学では、教員養成の本質をよりの確に把握し、適切な実践につなげるため、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育とのつながりを踏まえ、我が国の初等教育及び中等教育の在り方を学際的・総合的に研究し、学生への教育に生かしてきた。「子ども学研究所」を創り、共同研究を行っている。今後はさらに、教育界における女性の貢献をめざし、園児・児童・生徒に愛情深く寄りそえる叡智と感性を持つ教員、子どもたちが生涯にわたり心身ともに健康で活力ある生活を送るための基礎的な健康や体力を育むことのできる教員、園児・児童・生徒一人ひとりの内面の世界を耕し深める教員の養成に努める。

本学は文学部、教育学部、生活創造学部を擁し、人間性の問題・心の問題・社会や生活の問題・世界観的諸問題など、教育や人間にかかわる幅広い学術的研究分野があり、多様な科目が開講されている。それらの科目は、本学特有の「クロスオーバー学習システム」で他学部・他学科の学生も履修することができるよう開かれているので、幅広い豊かな教養を持つ教員を養成することができると考えている。

2. 認定を受けている課程を有する学科等の教員養成に対する理念及び設置の趣旨等

● 文学部 国際英語学科（中一種免（英語）・高一種免（英語））

グローバル化する現代社会において、英語は事実上の公用語であり、英語の習得はさまざまな社会活動に不可欠となっている。しかし国際的な場で真に活躍するためには、英語が話せるだけでは十分とはいえない。世界の多様な社会や文化、国際関係に関する深い理解と鋭い感性をそなえた国際人としての資質が求められる。翻って我が国の英語教育を見ると、知識の習得に偏重し、実践的な英語運用能力の獲得につながっていないということがしばしば指摘される。グローバル時代に対応する新たな教授法を身につけた英語教員の養成は急務である。

本学科では、社会のニーズに即した英語力を身につけ、国際的な視点をそなえたコミュニケーションのエキスパートを養成することを目的としており、そのために、自らテーマを設定してリサーチを進めるなど、主体的な活動を通して学びを深める「アクティブ・ラーニング」を重視したカリキュラムを構築している。教員養成においてもこのカリキュラムの特性を生かし、生徒たちに英語運用能力のみならず、プレゼンテーションやコミュニケーションの力、異文化への関心や理解、国際社会を見る目を身につけさせることができるような、幅広い能力をそなえた教員を養成することを目指している。

教科に関する科目については、「英語学」、「英米文学」、「英語コミュニケーション」、「異文化理解」の各区分において、1年次から4年次まで段階的に学習を進められるよう設定された豊富な科目がある。また TOEIC などの英語検定試験によって学生の総合的英語力を向上させ、英語圏の高等教育機関への留学によってさらに英語力を高め、異文化理解を深めるためのプログラムが組まれている。

本学科のカリキュラムは、これからの時代に対応できる優れた英語教員の養成に大いに貢献できると考え、教員養成課程を設置するものである。

● 文学部 史学科（中一種免（社会）・高一種免（地理歴史））

本学史学科では、地理歴史に関する学修を通じ、そこで得た知識や教養を統合して人間・文化・社会・自然に対する理解を深めるとともに、そこで培った洞察力・視野・問題意識を現代社会の多様な問題の解決に応用し得るような、実践的技能と創造的思考力を身につけることを教育理念としている。すなわち本学科のカリキュラムを受講する学生には、地理歴史の知識を多く修得するのみならず、地理学・歴史学という学問を修める上で必須な、論理的な思考法やそれを外部に発信する力を養い、現在および過去に対する的確な分析を以てよりよい未来に活かしていく技能を身につけ、それによって社会の各所で活躍する人材となることを期待し、そのための教育課程を整備している。

本学卒業生の進路は、言うまでもなく様々である。史学科においても、社会の多彩な方面で活躍する人材を輩出してきた実績が既にある。そのような進路の主たる一つであり、かつ本学科の教育理念を最も直截的に体現しそれを社会に還元できる職業が、高等学校地理歴史科ならびに中学校社会科の教員である。本学科で学びこれらの職業に就いた卒業生は、高校生中学生に対し、単なる「暗記物」としての知識ではなく、上述したような歴史学地理学を修めることの個人的社会的な意義を、十分に伝えてくれると確信するものである。

以上のような考えのもと、本学科では高等学校地理歴史科ならびに中学校社会科の教員養成課程を重視し、その資格取得を希望する学生に対し手篤い支援を行っている。

● 文学部 心理学科（高一種免（公民））

心理学科は認知心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学の4分野からなる総合的心理学科である。本学心理学科はこのように人と、人の社会をトータルに理解することを教育目標としており、人および社会の特質、成り立ちと今日の問題について学習する教育課程を有している。そして、このような観点から現代の社会とそこに生きる人間をよく理解し、教育する公民科教員を養成し世に送り出したいと考えている。

今日のわが国の社会とそこに生活する人々には、これまでには見られることがあまりなかった特徴や問題、たとえば少子高齢化やひきこもりなどの問題がある。このようなわが国社会と人間を理解するために、心理学科の教育課程の基本であるトータルな人間観が有用であると考えている。特に、心理学科の4分野のうち社会心理学分野では、人と文化、わが国の文化の特徴、コミュニケーションの特質、組織や集団についてという教育課程を有していて、これは現代社会の特徴や課題についての理解において基本と言っている。また、発達分野では人のあり方、特に青年期の特徴と課題や生き方・倫理についての学習を行う。これは人としてのあり方・生き方・倫理についての理解の必須であると考えます。

上記のように心理学科では現代社会、人、青年について総合的に学習する教育課程を有しており、このような教育に基づいて、今日のわが国特有の人と社会の特徴や課題について、よく理解し教育しうる公民科教員を養成するよう努力をしている。

● 文学部 日本文化学科（中一種免（国語）・高一種免（国語））

日本文化学科は、日本の伝統や文化を深く理解し、国際的感覚を持って世界に発信できる実践力のある人材を養成することを教育目標としている。そのような人材の育成において文学を中心とする日本の言語文化に関する学習は根幹をなすもので、中学・高校の国語科教員養成は日本文化学科の基本的な教育理念に基づくものである。日本文化学科の教育カリキュラムには、日本文学・日本語学系の科目群のほかに、美術、伝統芸能、民俗などに関する多様な科目群があり、日本文化に関してさまざまな視点からの学習を深めることを通じて真に有用な国語科教員を育成できると考える。このようなことから、本学科は、日本文化に関する総合的な教養を基盤とした国語科教員養成課程を設置している。

● 教育学部 幼児教育学科（幼一種免）

本学科は川村短期大学に昭和28年（1953）に設置された保育科をその源泉とし、平成3年（1991）に大学設立と同時に教育学部幼児教育学科を設立、爾来、幼稚園教諭一種免許取得課程を有する。本学科が創立された当時、子どもを取り巻く環境は平成の新時代を迎え大きく変容しており、複雑化・多様化した生活・社会環境に生きる幼児の育成と、その保護者の援助を鑑み、より広い基礎知識と高度な専門知識および実践技能を備えた、質の高い幼児教育者が求められていた。また、教職免許法の改正がおこなわれたことから、学部開設に伴い短期大学の発展的吸収・継続として本学科を設け、いっそう高度化・多様化した教育を通して、充実した専門知識と技能をもった幼児教育者の育成を図り、当時の時代の要請に応えようとした。その後も一貫してこの設置の趣旨は変わらず、時代に応じた教員養成を目指しつつも、基礎的学力と専門知識を併せもつ、信頼性の高い幼児教育者養成をおこなっている。本学科における教員養成に対する理念は、本大学の教員養成に対する理念を土台としつつも、上記の本学科ならではの設置の趣旨も同時に考慮し、幼児教育者としての専門性だけでなく人間として生きる基礎力を有するとともに、幼児および保護者への共感的理解のできる幼児教育者の育成を目指す。そのために学修カリキュラムにおいては、1年次から4年次まで一貫して、理論と技術・体験の調和のとれた積み上げ型のカリキュラムを実施している。

● 教育学部 児童教育学科（小一種免）

児童教育学科は、本学設立の理念である「感謝の心」を基盤とした「自覚ある女性」の育成による「社会への奉仕」を教育の理念として、学校における問題が多様化・複雑化するなかで、時代に対応した実践力のある小学校教員を育成することを目指している。入学当初から、積極的に教育現場に足を運び、児童と接する機会を多く持ち、また、市教委・県教委等教育行政とも密接な連携を図り、教育現場における経験をできるだけ積んだうえで、卒業までに小学校教員としての実践力を身に付けた教員の育成を行っている。

本学科が育成しようとする教員像は以下のようなものである。

1. 建学の精神である「感謝の心」の大切さ、女性の社会貢献の意義を知り、教員としての使命感にあふれ、人間性豊かな教員
2. 児童に対して、厳しさの中にやさしさを備える深い教育的愛情を持ち、現代的な課題に適切に対応できる教員
3. 教科についての深い知識をもち、的確な教材を選び、適切に指導できる学力を身につけた、深い専門的な知識を持つ教員
4. 児童と信頼関係を築き、児童を積極的に学習に向かわせる力を身につけた教員

● 生活創造学部 生活文化学科（中一種免（家庭）・高一種免（家庭））

生活文化学科のカリキュラムは、「栄養・健康」と「社会・生活」の2領域から構成され、生活者・消費者として生活全般を見渡せる社会的素養、豊かな生活を創造する実践力を有する人材育成を目指している。

本学科では、「食」を取り巻く社会的な問題を講究し、少子高齢化、地球環境問題、消費者問題、変容する家庭生活、男女共同参画社会を支える人材の育成など、様々な問題を学ぶことができる。この学習内容は、衣食住に加え、生活・家庭・男女共同参画を教科の内容とする家庭科と適格的である。また「食」の商品開発を中心に問題解決型授業に取り組んでいる本学の学生は、平成27年度からの学習指導要領で重点を置いている「生きる力」に付いても資質を涵養している。

学生は学んだことを、現代社会が抱える生活の諸問題を考察し、問題解決できる能力を身に付け、自ら社会に参画していく資質へと、さらに発展させることができる。また、学んだ内容の主たる部分を教育・社会への貢献に活かせる家庭科教員の養成を目指している。

● 生活創造学部 生活文化学科（栄教二種免）

生活文化学科は栄養士の養成を主とした食物・健康、文化・アート、社会・生活の3領域からなる。我が国の食生活は経済の発展とともに豊かになった一方で、食生活の乱れ、肥満、朝食の欠食、生活習慣病の低年齢化など様々な問題が生じている。望ましい食習慣は生涯に渡る心身の健康の保持・増進に不可欠である。

本学科では食を中心として、生活者・消費者として生活全般を見渡せる社会的素養、豊かな生活を創造する実践力を有する人材育成を目指している。特に成長期にあたる児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、望ましい食習慣の形成を促し、食文化の継承、自己管理能力の育成、豊かな心、社会性を身に付ける能力を有した栄養教員の養成を目指している。

3. 課程認定を受けている課程を有する学科等の各段階における到達目標

<国際英語学科> (認定課程：中一種「英語」)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野(建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求)について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、第二外国語、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PC等の情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。英語運用能力を伸ばし、英米文化や英語の知識を身につけ、英語科教育の聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの基礎的・基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の5分野(建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求)について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、第二外国語、スポーツなどの学びを継続し、さらに幅広い教養を身につける。PC等の情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的・技能的な事項を身につける。英語運用能力、英米文化や英語に関する学習を継続し、英語科教育の聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの基礎的・基本的な事項を説明できる。
2年次	前期	教育の理念・思想、教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を述べるができる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。言語習得理論、英語の教授法、言語要素の指導についての知識を習得する。英語科教育分野の科目内容について学習し、中学校学習指導要領(外国語編)の内容を述べるができる。英語科の授業の流れについて説明できる。
	後期	教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を述べるができる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得し、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる。学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、英語科教科書の内容を教材として解釈できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。
3年次	前期	英語科教育分野の科目内容の学習を継続し、英語科教科書および資料などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等、授業をおこなう上での基本的な表現の技術及び聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、語彙文法指導に関する技術を身につける。生徒指導や教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	教材研究を生かした英語科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案を作成することができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。道徳教育の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、道徳の時間の指導及び学校教育全体での指導ができる。介護等体験や学校ボランティアを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなしたりすることができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。
4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて個々の子どもの特性や状況に応じた方法をとることができる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心をもち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学びを続ける姿勢をもつことができる。教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身につけている。高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職務を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

<国際英語学科> (認定課程：高一種「英語」)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野(建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求)について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、第二外国語、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PC等の情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。英語運用能力を伸ばし、英米文化や英語の知識を身につけ、英語科教育の聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの基礎的・基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の5分野(建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求)について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、第二外国語、スポーツなどの学びを継続し、さらに幅広い教養を身につける。PC等の情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的・技能を身につける。英語運用能力、英米文化や英語に関する学習を継続し、英語科教育の聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの基礎的・基本的な事項を説明できる。
2年次	前期	教育の理念・思想、教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を述べるができる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。英語科教育分野の科目内容について学習し、高等学校学習指導要領(外国語編・英語編)の内容を述べるができる。英語科の授業の流れについて説明できる。
	後期	教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を述べるができる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得し、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる。学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、英語科教科書の内容を教材として解釈できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。
3年次	前期	英語科教育分野の科目内容の学習を継続し、英語科教科書および資料などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等、授業をおこなう上での基本的な表現の技術及び聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、語彙文法指導に関する技術を身につける。生徒指導や教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	教材研究を生かした英語科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案を作成することができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。進路指導(キャリア教育を含む)の内容に関する基礎理論・知識を学び、個々の子どもたちに対応した進路指導ができる。介護等体験や学校ボランティアを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなしたりすることができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。
4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて個々の子どもの特性や状況に応じた方法をとることができる。他者の意見やアドバイスを耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学びを続ける姿勢をもつことができる。教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身につけている。高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職務を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

<史学科> (認定課程：中一種免「社会」)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。社会科教育の歴史的分野、地理的分野、公民的分野の基礎的基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどの学びを継続し、さらに幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的技能を身につける。社会科教育の歴史的分野、地理的分野、公民的分野の基礎的基本的な事項を説明できる。
2年次	前期	教育の理念・思想、教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を述べるができる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。社会科教育分野の科目内容について学習し、中学校学習指導要領（社会編）の内容を述べるができる。社会科の授業の流れについて説明できる。
	後期	教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を述べるができる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。学習集団形成に必用な基礎理論・知識を習得し、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる。学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、社会科教科書の内容を教材として解釈できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。
3年次	前期	社会科教育分野の科目内容の学習を継続し、社会科教科書および資料集などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等授業を行ううえでの基本的な表現の技術を身につける。生徒指導や教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	教材研究を生かした社会科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。道徳教育の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、道徳の時間の指導及び学校教育全体での指導ができる。介護等体験や学校ボランティアを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。
4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を取ることができる。他者の意見やアドバイスを耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持つことができる。教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身につけている。高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

<史学科> (認定課程：高一種免「地理歴史」)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。地理歴史科教育の世界史、日本史、地理の基礎的基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどの学びを継続し、さらに幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的技能を身につける。地理歴史科教育の世界史、日本史、地理の基礎的基本的な事項を説明できる。
2年次	前期	教育の理念・思想、教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を述べるができる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。地理歴史科教育分野の科目内容について学習し、高等学校学習指導要領（地理歴史編）の内容を述べるができる。地理歴史科の授業の流れについて説明できる。
	後期	教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を述べるができる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。学習集団形成に必用な基礎理論・知識を習得し、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる。学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、地理歴史科教科書の内容を教材として解釈できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。
3年次	前期	地理歴史科教育分野の科目内容の学習を継続し、地理歴史科教科書および資料集などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等授業を行ううえでの基本的な表現の技術を身につける。生徒指導や教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	教材研究を生かした地理歴史科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。進路指導（キャリア教育を含む）の内容に関する基礎理論・知識を学び、個々の子どもに対応した進路指導ができる。介護等体験や学校ボランティアを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。
4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を取ることができる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心をもち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持つことができる。教育に対する使命感や情熱をもち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身につけている。高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志をもち、自己の職責を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

<心理学科> (認定課程：高一種「公民」)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。公民科教育の現代社会、倫理、政治・経済の基礎的基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどの学びを継続し、さらに幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的技能を身につける。公民科教育の現代社会、倫理、政治・経済の基礎的基本的な事項を説明できる。
2年次	前期	教育の理念・思想、教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を述べるができる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。公民科教育分野の科目内容について学習し、高等学校学習指導要領（公民編）の内容を述べるができる。公民科の授業の流れについて説明できる。
	後期	教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を述べるができる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。学習集団形成に必用な基礎理論・知識を習得し、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる。学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、公民科教科書の内容を教材として解釈できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。
3年次	前期	公民科教育分野の科目内容の学習を継続し、公民科教科書および資料集などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等授業を行ううえでの基本的な表現の技術を身につける。生徒指導や教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	教材研究を生かした公民科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。進路指導（キャリア教育を含む）の内容に関する基礎理論・知識を学び、個々の子どもに対応した進路指導ができる。介護等体験や学校ボランティアを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。
4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を取ることができる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持つことができる。教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身につけている。高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

<日本文化学科> (認定課程：中一種免「国語」)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。国語科教育の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどの学びを継続し、さらに幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的技能を身につける。国語科教育の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的基本的な事項を説明できる。
2年次	前期	教育の理念・思想、教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を述べることができる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。国語科教育分野の科目内容について学習し、中学校学習指導要領（国語編）の内容を述べることができる。国語科の授業の流れについて説明できる。
	後期	教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を述べることができる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。学習集団形成に必用な基礎理論・知識を習得し、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる。学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、国語科教科書の内容を教材として解釈できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。
3年次	前期	国語科教育分野の科目内容の学習を継続し、国語科教科書および資料集などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等授業を行ううえでの基本的な表現の技術を身につける。生徒指導や教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	教材研究を生かした国語科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。道徳教育の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、道徳の時間の指導及び学校教育全体での指導ができる。介護等体験や学校ボランティアを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。
4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を取ることができる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持つことができる。教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身についている。高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

<日本文化学科> (認定課程：高一種免「国語」)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。国語科教育の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどの学びを継続し、さらに幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的技能を身につける。国語科教育の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの基礎的基本的な事項を説明できる。
2年次	前期	教育の理念・思想、教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を述べることができる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。国語科教育分野の科目内容について学習し、高等学校学習指導要領（国語編）の内容を述べることができる。国語科の授業の流れについて説明できる。
	後期	教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を述べることができる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。学習集団形成に必用な基礎理論・知識を習得し、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる。学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、国語科教科書の内容を教材として解釈できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。
3年次	前期	国語科教育分野の科目内容の学習を継続し、国語科教科書および資料集などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等授業を行ううえでの基本的な表現の技術を身につける。生徒指導や教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	教材研究を生かした国語科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。進路指導（キャリア教育を含む）の内容に関する基礎理論・知識を学び、個々の子どもに対応した進路指導ができる。介護等体験や学校ボランティアを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。
4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を取ることができる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持つことができる。教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身についている。高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。

<幼児教育学科>（認定課程：幼一種免）

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育科目（5分野）、外国語、スポーツ、情報処理などの履修をとおし、幅広い教養と健康を身に付けると共に、基礎ゼミナールにおいて大学での学びの基礎的スキルを習得する。教職の研究、発達心理学の履修により、教職の基礎を学ぶと同時に、幼児教育体験学習における体験型学習によって多様な「ひと・もの・こと」との出会いを果たすなかで、教育職への意欲と心構えを持つ。
	後期	前期の科目履修の継続をとおし、更に深く教養を身に付ける。幼児教育者の専門的能力として、音楽Ⅰ、体育Ⅰ、図画工作Ⅰなどの表現技術の基本を習得するとともに、教育原理などの履修により、教育の基礎理論や知識、幼児教育の理念や教育課程の編成の構造、幼児教育の基本的な歴史などについて学び、幼児教育者としての基本的な専門知識を習得する。
2年次	前期	教育史、教育社会学、カリキュラム論などの履修をとおし、教育の歴史、哲学、思想、制度などの基本的構造を理解するとともに、幼児教育を取り巻く現代的課題について原理的・歴史的な視点でとらえる力を身につける。幼児教育および保育について学習し、広く社会に奉仕する仕事の意義とその役割についても理解する。さらに、5領域に関する指導法の教科においては、領域の特性に合わせた指導方法を知るとともに、各領域の関連性についても目配りできる視点を習得する。特に5領域の学習においては、幼児について共感的かつ多様な視点を持つことができる。
	後期	保健やカウンセリング概論などの履修をとおし、幼児の心身の成長発達の基本について知識を得る。音楽Ⅱ、体育Ⅱ、図画工作Ⅱなどの実技科目では、多様な芸術的手法をもって表現する能力を、其々Ⅰの上に発展的に習得する。領域に関する指導法については、領域の特性に応じた指導方法を知り、相互の関連性について深く知識を得るとともに、応用発展的な立案を構想する力を養成する。
3年次	前期	臨床心理学などの履修をとおし、幼児の心身の発達について深く知るとともに、個別的な対応の心得と技法を習得する。領域に関する指導法においては、2年次迄の基礎的理解をもとに、さらに応用発展させて指導内容を立案し実践する力を身に付ける。ピアノ演習、造形研究などの表現・技術的な科目については、基礎的な力量のうえに幼稚園教諭として求められる一定水準以上の技法を習得する。
	後期	発達の過程や領域、年間計画・月間計画・日案などを考慮した幼児教育実践の立案をすることができるようになる。幼児の姿や、予測される反応などを想定した指導案を、導入・展開・まとめの流れをもって実践できる。初回の教育実習をとおし、幼児の姿、幼稚園教諭の職務の遂行、環境の構成などを観察し、実践的理解を深めるとともに、実習経験をもとにして、各自の課題を明確化し、省察する力を習得する。
4年次	前期	教育実習（責任実習を含む）をとおして、幼児教育の基礎を再確認するとともに、多様な表現を用いて実践的活用と応用力を獲得する。責任実習（全日）の案を、幼稚園の実態に応じて立案作成することができる。実践面においては、個々の幼児の実態に合わせて臨機応変に対応しつつ、集团的力動性を生かした教育実践を展開できる。保護者や、地域との連携・協力の重要性や役割について説明できる。
	後期	幼児教育に関する知識と技術を総合的に振り返り、知識についての説明、表現技術における応用や活用法を説明できる。教育実習を振り返り、各自の課題を明確にして文字化し、解決に向けての方法論を持つことができる。幼稚園教諭としての使命感や倫理観をしっかりと確立し、職務を遂行しようとする意識を持つ。多様化・複雑化する社会についても多様な角度から捉え、幼児教育者として社会と幼児とに貢献できる人格の基礎的完成を達成する。

<児童教育学科>（認定課程：小一種免）

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の「建学の精神と現代的教養」、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、基礎的な教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。教職の意義と教育の理念・思想に関する基礎理論・知識について説明できる。主に小学校低学年において必要な各教科の基本的性格と科目目標・内容構成を理解し、各学年の授業構想や指導計画を作成できるとともに、学習の評価の仕組みと方法を説明できる。また、小学校学習指導要領の内容をと各教科の授業の流れについて説明できる。
	後期	共通教育選択必修科目の「建学の精神と現代的教養」、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、基礎的な教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。子ども理解のために必要な発達理論に関する基礎的な知識を説明することができる。主に小学校高学年において必要な各教科の基本的性格と科目目標・内容構成を理解し、各学年の授業構想や指導計画を作成できるとともに、学習の評価の仕組みと方法を説明できる。また、小学校学習指導要領の内容と各教科の授業の流れについて説明できる。
2年次	前期	教科の学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得する。教科書の内容を教材として解釈し、教科書及び資料集などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等、授業に必要な基本的な表現の技術を身につける。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を説明できる。教育心理学や生徒・進路指導を学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	教科の学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得する。教科書の内容を教材として解釈し、教科書及び資料集などの教材を分析できる。板書や発問、的確な話し方等、授業に必要な基本的な表現の技術を身につける。教育の歴史、教育課程の編成に関する基礎理論・知識を説明できる。道徳教育、特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、道徳の時間の指導及び学校教育全体での指導や、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。介護等体験や教育インターンシップを通して、率先して自らの役割を見つけ、与えられた役割をこなすことができる。
3年次	前期	教材研究を生かした授業を構想し、子どもの発達段階への理解と反応を想定した指導案をまとめることができる。授業改善のための情報収集方法身につける。児童保健や学校栄養教育により、子どもの心や体の健康と発達のために必要な援助の仕方や技術を習得する。小学校教育において必要な各教科の知識を発展的に身に付け充実させる。集団において他者と協力し課題に取り組むことができる。
	後期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育など、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を取ることができる。小学校教育において必要な各教科の知識を発展的に身に付け充実させる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て、課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
4年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、人間と社会、表現法の探求）をすべて履修し、社会人として求められる幅広い教養を身につける。特別支援教育の理念と実践を学び、特別な支援を必要とする子どもたちを理解し、適切に関わることができる。アクティブ・イングリッシュにより、英語指導に必要な理論、指導法等を習得する。小学校教育において必要な各教科の知識および教職に関する知識を発展的に身に付け、充実させる。教職への自己の適性を省察できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持つことができる。教育に対する使命感や情熱を持つとともに、「感謝の心」と豊かな感性を備え、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身につけている。高い倫理感と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、

		自己の職責を果すことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。
--	--	--

<生活文化学科> (認定課程：中一種免「家庭」)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の4分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、日本国憲法、外国語（英語を含む）などを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務、『チーム学校』等保護者・地域連携の内容について述べるができる。家庭科教育における食物学分野の基礎となる、栄養、食生活、調理に関する基礎的基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の4分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的技能を身につける。教育の理念・思想に関する基礎理論・知識について説明できる。家庭科教育における生活や社会について基礎的な理解を図る。家庭経営学分野の基礎的基本的な事項を説明できる。食物学分野の食品に関する基礎的基本的な事項を説明できる。また、実習科目においては技能を高める。
2年次	前期	共通教育のスポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。教育の教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。生徒指導について学び、的確な生徒指導方法を選択することができる。家庭科教育の科目内容について家族関係学分野、被服学分野、住居学分野の基礎的基本的事項を説明できる。中学校学習指導要領（家庭編）の内容を述べるができる。家庭科の授業の流れについて説明できる。
	後期	学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、家庭科教科書の内容を教材として解釈できる。道徳教育の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、道徳科の時間の指導及び学校教育全体での指導ができる。教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止めながら、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。家庭経済学分野、保育学分野の基礎的基本的事項を説明できる。被服学分野の実習科目において基礎的技能を身につける。介護等体験を通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割を的確にこなすことができる。
3年次	前期	家庭科教育分野の科目内容の学習を継続し、家庭科教科書および資料などの教材を分析できる。題材に応じた教材・資料を作成することができる。板書や発問、的確な話し方等授業を行う上での基本的な表現の技術を身につける。総合的な学習の時間の目的を理解し、授業設計、学習活動を計画し、実践できる。授業や生徒の学習活動に、ICT機器を適切に活用できる。特別支援教育に関わる基礎理論・知識を習得し、説明できる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。被服学分野の実習科目において基礎的技能を身につける。
	後期	教材研究を活かした家庭科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。学校教育の制度的・経営的事項及び学校安全にかかわる必要な基礎理論・知識を述べるができる。教職インターンシップを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割を的確にこなすことができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。

4 年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を活かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法をとることができる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。教育に対する使命感や情熱をもち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身についている。高い倫理観、規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。教職をめざすものとして、自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢をもつことができる。

＜生活文化学科＞（認定課程：高一種「家庭」）

（１）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の4分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、日本国憲法、外国語（英語を含む）などを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。教職の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務、『チーム学校』等保護者・地域連携の内容について述べるができる。家庭科教育における食物学分野の基礎となる、栄養、食生活、調理に関する基礎的基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の4分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的技能を身につける。教育の理念・思想に関する基礎理論・知識について説明できる。家庭科教育における生活や社会について基礎的な理解を図る。家庭経営学分野の基礎的基本的な事項を説明できる。食物学分野の食品に関する基礎的基本的な事項を説明できる。また、実習科目においては技能を高める。
2年次	前期	共通教育のスポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。教育の教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。特別活動の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、学習指導要領に沿った特別活動を準備できる。生徒指導について学び、的確な生徒指導方法を選択することができる。家庭科教育の科目内容について家族関係学分野、被服学分野、住居学分野の基礎的基本的事項を説明できる。中学校学習指導要領（家庭編）の内容を述べるができる。家庭科の授業の流れについて説明できる。
	後期	学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得し、家庭科教科書の内容を教材として解釈できる。道徳教育の指導法と内容に関する基礎理論・知識を学び、道徳科の時間の指導及び学校教育全体での指導ができる。教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止めながら、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。家庭経済学分野、保育学分野の基礎的基本的事項を説明できる。被服学分野の実習科目において基礎的技能を身につける。介護等体験を通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割を的確にこなすことができる。
3年次	前期	家庭科教育分野の科目内容の学習を継続し、家庭科教科書および資料などの教材を分析できる。題材に応じた教材・資料を作成することができる。板書や発問、的確な話し方等授業を行う上での基本的な表現の技術を身につける。総合的な学習の時間の目的を理解し、授業設計、学習活動を計画し、実践できる。授業や生徒の学習活動に、ICT機器を適切に活用できる。特別支援教育に関わる基礎理論・知識を習得し、説明できる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。被服学分野の実習科目において基礎的技能を身につける。家庭電気・機械及び情報処理分野の基礎的基本的事項を説明できる。
	後期	教材研究を活かした家庭科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができる。他者と共同して授業を企画・運営・展開することができる。学校教育の制度的・経営的事項及び学校安全にかかわる必要な基礎理論・知識を述べることができる。教職インターンシップを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割を的確にこなすことができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。

4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を活かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法をとることができる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。
	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。教育に対する使命感や情熱をもち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身についている。高い倫理観、規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。教職をめざすものとして、自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢をもつことができる。

<生活文化学科> (認定課程：栄教二種免)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどを学び、幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる基礎理論・知識を習得する。食に関する指導の基礎となる、栄養、健康、食生活、食品、調理に関する基礎的基本的な事項を身につける。
	後期	共通教育選択必修科目の5分野（建学の精神と現代的教養、自然と生命、人間と文化、世界と日本、表現法の探求）について、各分野の科目の少なくとも1科目以上、外国語（英語を含む）、スポーツなどの学びを継続し、さらに幅広い教養を身につける。PCなど情報機器の操作に関わる学習を継続し、基礎的技能を身につける。食に関する指導の基礎となる、栄養、健康、食生活、食品、調理に関する基礎的基本的な事項を説明ができる。また、これらの実験および実習の科目においては、基礎的技能を身につける。
2年次	前期	教育の理念・思想、教育課程の編成に関する基礎理論・知識について説明できる。学校教育の制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を述べるができる。子ども理解のために必要な心理・発達理論的な基礎知識について説明できる。食に関する指導に関わる科目内容について学習し、食生活に関する歴史的、文化的事項について説明できる。また、児童生徒の健康教育における栄養の指導及び管理の意義、その現状と課題について説明できる。
	後期	教職及び栄養教諭の意義と教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を述べるができる。学校教育の歴史および社会的・制度的理解に関わる基礎理論・知識について説明できる。学習集団形成に必要な基礎理論・知識を習得し、子どもの発達段階を考慮して、適切に接することができる。学習指導法に関わる基礎理論・知識を習得する。学校給食管理における学校給食の意義、役割及び、生きた教材としての活用方法が説明できる。食に関する指導において関連する科目の教科書の内容を教材として解釈でき、食に関する指導の準備ができる。
3年次	前期	食に関する指導に関連する科目内容の学習を継続し、関連する科目の教科書および資料などの教材を分析できる。食に関する指導に係る全体的な計画の作成および題材に応じた教材・資料を作成することができる。板書や発問、的確な話し方等授業を行ううえでの基本的な表現の技術を身につける。生徒指導や教育相談について学ぶことで、子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができる。挨拶、言葉遣い、服装、他の人への接し方など、社会人としての基本的事項を身につける。
	後期	生きた教材を活用した食に関する指導の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができる。地域や家庭などと連携して授業を企画・運営・展開することができる。食物アレルギーなどの食に関する特別な指導を必要とする、個別指導上の配慮ができ、児童・生徒の状況に応じた対応方法をとることができる。介護等体験や学校ボランティアを通して、率先して自らの役割を見つけたり、与えられた役割をきちんとこなすことができる。集団において、他者と協力して課題に取り組むことができる。
4年次	前期	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成できる。子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができる。学級経営案を作成することができる。いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応方法を取ることができる。他者の意見やアドバイスに耳を傾け、理解や協力を得て課題に取り組むことができる。保護者や地域との連携・協力の重要性を説明できる。

	後期	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができる。自己の課題を認識し、その解決に向けて、学び続ける姿勢を持つことができる。教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、ともに成長しようとする姿勢が身についている。高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。
--	----	--